学んだ成果を活かして地域に役立つ活動を
社会の新たな担い手として シニアのコミュニティへの参加と 社会貢献のきっかけづくりをサポート

50歳以上のアクティブシニアを対象とした新たな学びの場として2008年4月に開学した立教セカンドステージ大学（RSSC）には、受講生や修了生の社会貢献活動を支援する「社会貢献活動センター」が設置されている。ここにはさまざまな調査、研究、実践を行っている団体が登録され、それぞれ自主的な活動を展開している。

今回、先進まちづくり事例で取り上げるのは、RSSC5期生を中心に結成された「コミュニティ活動研究会（略称・コミ研）」である。豊島区をはじめとする地域で貢献活動を行っており、活動をしてみたいと思う人にとってのコーディネーター役も担いつつある。同研究会メンバーに、活動内容とシニアの社会参加についてうかがった。

学んだ成果を活かした社会貢献活動をサポート

平均年齢62歳、160名ほどの学生が学んでいる立教セカンドステージ大学（RSSC）。〝第二の人生〟を送るにあたって、社会とつながり、学んだ成果を活かして社会貢献をしたいという受講生や修了生の思いに応え、活動を促進するための「社会貢献活動サポートセンター」が設置されている。ここにはセカンドステージに役立つ調査・研究や社会的に意義のある活動を自主的に行っている団体が登録され（2015年現在12団体）、それぞれ自主的に運営されている。

コミュニティ活動研究会は、2013年2月、5期生の坂田博久さんと6期生の小石澤信男さんを中心に結成された。代表の坂田さんは「RSSCで学び直しをした後、セカンドステージへの再チャレンジをしようと思ってもどうしたらいいのかわからない人は多い。私自身、探していました。ならばまずは実践してみようとこの研究会を立ち上げたんです」とそのきっかけを語る。

豊島区のNPO中間支援団体「としまNPO推進協議会」（としN協）の事業である「えんがわ市」「池袋西口公園フリーマーケット」などに参画するところからスタートしたこともあり、当初の名称は「としまコラボクラブ」であったが、活動の広がりとともに「コミュニティ活動研究会」へと改称した。

コミ研が独自に開発した企画に「シニア変身講座」がある。これは、豊島区の22の小学校区にある地域コミュニティの拠点「区民ひろば」で、2014年度から実施している講座。みらい館大明で開催していた「お父さん変身講座」をアレンジしたもので、プロのコーディネーターによるファッションのワークショップなどでシニア世代の地域デビューを応援する内容だ。「参加したシニアのみなさんが、顔の内側から光がさすように明るい表情をされるを見ると、こちらもたくさんの元気をいただくことができて達成感があります」とメンバーでRSSC8期生の齋藤恭子さんは話す。

楽しくなければ活動じゃない

齋藤さんがコミ研に参加した理由は、「楽しくなければ活動ではない」というモットーに惹かれたからだという。同じく8期生の青木美恵さんも、「RSSCに入学する前は、コミュニティに全く関わりのない生活でしたし、ボランティアの経験もなかった。コミ研はボランティア活動の敷居を低くしてくれました」と振り返る。

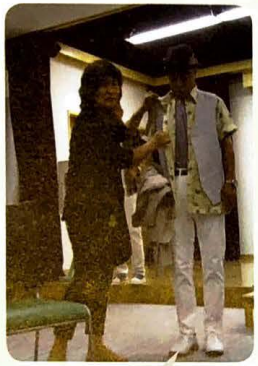
副代表の小石澤信男さんは活動を通して、生き方が変化したと実感するという。「地域貢献を難しく考えず、肩の力を抜いてやればいいと気がつきました。現役時代はひたすら利益追求で企業のヒエラルキーの中にいましたが、フラットでオープンであることが大切なんですね」

立教セカンドステージ大学での講義風景。
本科1年、さらに学びたい人向けに1年の専攻科がある

活動の中心メンバー。
会員は2015年11月現在、
登録会員32人、OB、OG会員19人
を数える

コミュニティ活動研究会 主な活動

えんがわ市
毎月、第二日曜日に池袋3丁目の池袋第二公園で開かれるフリーマーケットと模擬店。地域活性化のため継続して開催されている



シニア変身講座
豊島区地域区民ひろば課との協働事業。6期生でファッション・カラーコーディネーターの堀本恵子さんによるワークショップの様子

いけぶくろ自然クラブ
とN協とNPO法人いけぶくろ大明（みらい館大明）が共同で実施する小学生を対象とした自然体験プログラム。
主にみらい館大明と埼玉県東松山市の里山で実施している

みらい館大明生涯学習 カリグラフィー講座
6期生の牧幸子さんによる講座。カリグラフィーとは古代ヨーロッパ発祥で、文字を美しく見せるための手法のこと

各種団体、NPOと連携

設立から3年がたち、活動は広がりを見せている。6期生が立ち上げた中野区江原町の教会を拠点に発足したRSAC（立教セカンドステージ・アカデミック・コミュニティ）にも協力。中野区社会福祉協議会と連携して開いているコミュニティカフェ「まちなかサロン　コスモス畑」や、豊島区教育委員会と連携しての放課後補習「としまチャレンジ教室」にメンバーが参加している。

「としまチャレンジ教室」は現在、さくら小学校の1～3年生と、椎名町小学校の4～5年生を対象に行われている。小学生補習支援チューターを務める8期生の落合仁史さんは、「子どもたちに学習の習慣をつけてもらうよう支援しています。祖父母と孫の関係に似た役割が求められていますが、やりがいがありますね」と話す。ほかにも、子ども支援を精力的に行っているNPO法人「豊島WAKUWAKUネットワーク」や、オーガニックコットンの栽培で福島復興を支援している「コットンドリームいわき」など、NPOや各種団体との連携をこれからも進めていく意向だ。

また、これから地域の課題に取り組みたい、ボランティアに参加したいという人のためにも、積極的に協力していくという。

「3月の社会貢献活動見本市でも、多くのお声がけをいただきました。コーディネートやプロデュースという形でも取り組んでいきたい」（坂田さん、小石澤さん）

今後ますますその活躍が期待されるアクティブシニアの存在。コミュニティへの参加と社会貢献の場を得て、ゆくゆくは地域社会でリーダーシップを発揮できるよう支援するコミ研の活動に注目していきたい。

（文：土屋典子）